HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ゲルハルト・リヒターのフォト・ペインティング作品 (1962-67年) に使用された写真群について
Author(s)	浅沼, 敬子
Citation	北海道大学文学研究科紀要, 125, 1(左)-31(左)
Issue Date	2008-06-20
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/33915
Type	bulletin (article)
File Information	ASANUMA.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学研究科紀要 125 （2008）

ゲルハルト・リヒターのフォト・ペインティング作品（1962-67 年）に使用された写真群について

浅　沼　敬　子

はじめに

写真を主として白黒で描き写す「フォト・ペインティング」[1] は，1960 年代前半のゲルハルト・リヒターに ── 言い換えれば，旧「西側」のアート・シーンに登場した頃のリヒターに ── 特徴的な技法として，あるいはそれによって作られた作品群の呼称として知られている。なかでも集中的に制作されたのが 1962–1966 年であるが[2]，描き写された写真（画題）の間に，少なくとも一見したところ意味的連関が認められないのもこの時期の作品の特徴であ

[1] 原語は Photo(Foto)-Malerei, Photo-Bild。現在邦語文献でこの呼称が広く使用されているため，本稿では慣習に従った。

[2] 1966 年からリヒターは「カラー・チャート」，「グレー・ペインティング」と呼ばれる抽象的作品群の制作にも着手していく。リヒター自身には，「それ（『旅行者』）以来私は写真をもとに絵を描いていない」として，1975 年にいったんフォト・ペインティングの制作を中断したという発言がある（Van Bruggen, Coosje, “Painting as a moral act”, *Artforum*, May, 1985. p. 86）。実際にはカラー写真の描き写しは 1975 年以降も繰り返し行われているが，こうした発言によると，リヒター自身はフル・カラーの風景や知人の写真を描き写した作品については「フォト・ペインティング」とみなしていなかったようだ。そのことは，1988 年にドイツ赤軍の雑誌写真をもとに白黒で描かれた『1977 年 10 月 18 日』シリーズを，彼自身，1960 年代の「フォト・ペインティング」作品群に連なる作品として他と区別していることからも推察される（Gerhard Richter, “Interview with Gregorio Magnani”, *Flash Art*, Mai/Juni, 1989, in: *Presseberichte zu Gerhard Richter “18. Oktober 1977”*, 1989, p. 68）。ここから本稿ではリヒターの「フォト・ペインティ

る。

執筆者（浅沼）の調査目的は，リヒターが特に集中的にフォト・ペインティング制作に取り組んだ 1962–1966 年（＋1967 年）の時期に彼が画題として選択した雑誌・新聞写真を特定し，それらの間に意味上の類縁性あるいは傾向を認めることであった。この目的の下に執筆者が行った調査のうち，一般向け週刊誌「Stern」，「Quick」，「Revue」[3]，「Bunte」の 1962–1967 年分についての調査報告が本稿である[4]。

1960 年代のリヒター作品に使用された雑誌写真の特定という作業に先鞭をつけたのは，イングリッド・ミステレク＝プラッゲ（Misterek-Plagge, Ingrid, 1990/1992）[5] である。ミステレク＝プラッゲも指摘しているように，長い間，リヒターの画題選択は恣意的なものであり，そこに何らかの意味的系統を認めることは困難だと考えられてきた[6]。しかし，一見普通の家族写真を描いたリヒターの『マリアンネおばさん』（1965）が実はナチスの安楽死政

ング」を以下の 2 点によって定義したい。①雑誌や書籍，新聞掲載写真をもとに描かれていること（個人的に撮られた写真でないこと），②白黒で，あるいは彩色の場合も 2，3 色内で描かれていること，である。

[3] 同誌は 1966 年第 32 号からケルン発行の週刊誌「Neue」と統合して「Neue Revue」と名称を変更した。

[4] ただし，著作権（写真使用料）の都合により対照表への写真掲載を本稿では断念した。また，これらの週刊誌に加えられるべき「Neue」（統合前）の調査は未了のため，本稿には「Neue」の調査結果が反映されていない。

[5] Misterek-Plagge, Ingrid, *“Kunst mit Fotografie” und die frühen Fotogemälde Gerhard Richters*, Münster/Hamburg: Lit, 1992.　なお，彼女の研究前後にも，部分的とはいえ元の写真を特定しようとする試みがなかったわけではない。（例：Grüterich, Marlies, “Gerhard Richters Phänomenologie der Illusion,” in: Ausst. Kat.: *Gerhard Richter. Bilder aus den Jahren 1962–1974*, Bremen: Kunsthalle, 1976）。

[6] リヒター自身たびたびそうした発言をしているが，しかし同時に彼の場合反対の発言も少なくない。ここでは批評家ベンジャミン・ブクローの「私には，君の絵画に伝統的イコノグラフィ（＊ここでは「意味の系譜」とでもいうべき意味）を構成しようとするのは全くばかげたことに思われる」（Richter, Gerhard, “Interview mit Benjamin H. D. Buchloh (1986)”, in: *Gerhard Richter Text*, hrsg., Hans-Ulrich Obrist, Frankfurt am Main/Leipzig: Insel Verlag, 1993/1996, S. 134）を例として挙げよう。

策の犠牲者を描いたものであったという若干センセーショナルなユルゲン・シュライバーの指摘（Schreiber, Jürgen, 2005）[7] が示したように，リヒターが選択した写真の「意味」を見逃すことは，リヒター作品が孕む政治・社会的，歴史的あるいは思想的意味を看過することにつながる。本稿の第一の目的は既述のように執筆者による週刊誌の調査報告だが（本稿第 2 部と付属の表），その調査にもとづくリヒターの写真選択に見られる傾向を併せて指摘したい。

１．ミステレク＝プラッゲの研究

1−1　ミステレク＝プラッゲの研究の主旨

ミステレク＝プラッゲの研究（1990/1992）の検討対象は，執筆者とほぼ同じく 1962-1966 年のリヒターによるフォト・ペインティング作品である。写真と絵画芸術の関係「史」にリヒターのフォト・ペインティング作品を位置づけようした彼女にとって重要だったのは，写真的要素と絵画的要素が彼の作品においていかに機能しているかを明らかにすることであった。彼女は写真と絵画の二媒体を截然と区別し，リヒターがフォト・ペインティングによって行なったのは，写真（現実）の絵画化による「異化／Verfremdung」であるとした。彼女の説明によれば「異化」とは ── 観者に現実（例：現実の演者）と芸術（例：劇中人物）とを混同させてしまう「感情移入／Einführung」の対（立）概念として ── 観者に芸術と現実との間の距離を認知させることで，対象と現実をより客観的に捉えさせる方法だという。同様に，リヒターのフォト・ペインティングにおいては，描きぼかし（絵画的・芸術的要素）

[7] Schreiber, Jürgen, *Ein Maler aus Deutschland: Gerhard Richter Das Drama einer Familie*, München/Zürich: Pendo Verlag, 2005.　なお，リヒターの『マリアンネおばさん』（1965）に描かれた母方のおばマリアンネがナチスの安楽死政策の犠牲になったという指摘自体は新しいものではなく，リヒター研究者には知られていた。Magisterarbeit von Henriette Kolb, *Gerhard Richter: 18. Oktober 1977*, Berlin: Freie Universität, 15. Januar, 1998, S. 40.

によって観者は描かれた対象（写真的・現実的要素）への感情移入を妨げられる。観者は，写っている（描かれている）対象をよく見ようとしてもぼかし（絵画・芸術的要素）によって阻害されてしまうが，他方ではその阻害によって対象（写真・現実的要素）のより客観的把握が可能になるという。

1－2　ミステレック＝プラッゲの研究の問題点

執筆者が再調査した「Stern」以下 4 誌（＊ミステレク＝プラッゲは「Revue」と「Neue」を同一の雑誌とみなしている）は，ミステレク＝プラッゲによって調査済である。ただし，彼女の目的が既述のようにリヒター作品における絵画的要素と写真的要素の相互関係を明らかにすることにあったため，彼女の論考において具体的に取り上げられた例 ── 完成された絵画作品のみならずその元型であると特定された雑誌写真 ── は多くない。彼女が写真と絵画の協働の例として具体的に挙げて検討したのは，ケネディ暗殺後自らも暗殺されたリー・ハーヴェイ・オズワルドの写真を描いた『オズワルド』（1964）以下 13 例に留まる。

検討例の少なさ[8] に加えて，ミステレク＝プラッゲによるフォト・ペインティング研究の最大の問題点は，執筆者の考えでは，写真と絵画という媒体の二分法に固執したことである。写真は現実の再現であるのに対し，絵画はそれ自体現存するのであり，そのため後者は観者が写真に写された現実を無批判に認知することを阻むという対立図式の下で各作品が検討されているため，作品の諸要素がこの前提に合致した仕方で解釈，分類される。「写真」と「絵画」にあらかじめ帰された一般的属性によって分類された作品の諸要素は，結局，ふたつの媒体それぞれの一般的属性に帰されるのみなのである。

1－3　ミステレク＝プラッゲの研究の注目すべき点 ── 写真の「意味」

ゲルハルト・リヒターが写真をぼかしつつ描き写したのが，ミステレク＝

[8] 彼女は自らの調査結果を必ずしも全て公表していないため，1962-66 年の前 4（5）誌を彼女が本当に調査したのかどうかという疑問すら生じかねない。

プラッゲのいうように観者に対象（現実）に対する批判的距離を保たせるためだったとするならば，批判的距離を保たねばならない対象とは具体的に一体何だったのか。なぜ彼女は，リヒターによって描き写された写真群について，諸要素を再び写真の一般的属性に還元するのでなく，何らかの類似性を探そうとしなかったのか。

彼女自身の研究の主旨から外れ，また充分検討や展開がなされなかったとはいえ，ミステレク＝プラッゲはリヒターの選択した写真の「意味」についても触れている。彼女は，ヨーゼフ・カスパー（Kasper, Josef）による雑誌写真の 4 分類(「政治／Politik」,「センセーション／Sensation」,「メディア／Medien」,「複製／Reproduktion」)[9] に従ってリヒターのフォト・ペインティング作品を分類した。そして，リヒターが選択した写真の多くが「センセーション」と呼ばれる領域に分類されると指摘した[10]。例えば，リヒターの代表作のひとつである，1966 年 1 月 27 日（推定）にフランクフルトで変死した娼婦の写真を描き写した『ヘルガ・マトゥーラ』（1966）〔一覧表番号 2， 3〕は，ミステレク＝プラッゲによって「センセーション」に分類された。また，同じくリヒターの代表作のひとつで，シカゴの看護学生寮に突然押し入った男に惨殺された女子学生 8 人の生前写真を描いた『 8 人の看護学生』〔一覧表番号 58〕（1966）も，彼女によって「センセーション」に含まれている。

ミステレク＝プラッゲによるリヒター作品の「意味」の探求は，リヒター作品の画題に「センセーション」に含まれるものが多いのではないかという疑問を呈したままで特に検証もなく終わったが，この仮定自体は執筆者の考えにも合致する。その意味で本研究は，ミステレク＝プラッゲがその研究目的ゆえに充分に検討し得なかったリヒター作品の主題についての問いを引き

---

[9] Kasper, Josef, *Belichtung und Wahrheit. Bildreportage von der Gartenlaube bis zum Stern*, Frankfurt am Main/New York: Campus-Verlag, 1979.　ただし同書における分類とミステレク＝プラッゲのそれは必ずしも一致しない。

[10] ただし，当時まだカタログ・レゾネが刊行されていなかったためか，分類された作品が極めて限定的で恣意的に見える（自ら既に取り上げている作例が分類に含まれていないなどの不可解な点が多い）。

継ぐものといえるだろう。

2．「Stern」「Quick」「Revue」「Bunte」の調査結果より

2－0

執筆者が「Stern」以下4誌の閲覧によって，リヒターが切り抜いた雑誌写真と同じであるか，あるいはそれと同じ主題を扱ったとみなした記事は60点に上る（付属の一覧表を参照のこと）[11]。残念ながらリヒターの切り抜き写真を集めた『アトラス』[12] に全ての切抜きが貼付されているわけではなく，この数字が同時期のリヒターの切り抜き全体の何％を占めるのかは確定できない。調査にあたって執筆者が依拠したのはリヒターの1993年発行のカタログ・レゾネ[13] ならびに『アトラス』（注12），ブリギッテ・ヤーコプス作成の資料[14] であるが，それらをもとにすればリヒターが雑誌やガイドブック等から切り抜いた写真（＋それをもとに描いたと思われる絵画）と思われるものは約160-165枚にのぼり，暫定的だが，そこから本稿で執筆者がその出自を公表した分は全体の約36-38％と推定される。

現在出自が明らかになった60例をミステレク＝プラッゲの行なった4分類（「政治」，「センセーション」，「メディア」，「複製」）に分類することも可能だが，例えば彼女の分類法に従えば「政治」に含まれるであろう，第二次世界大戦末期に東部ドイツ人がソ連軍の攻撃を怖れて西部へ逃亡中に起こっ

---

[11] 調査は主としてベルリン自由大学のマスコミュニケーション学図書館（Bibliothek des Instituts für Publizistik- und Kommunikationswissenschaft）で行なったが，雑誌そのものに欠本や切抜きが少なくなかったこともあり，全頁を検証できたわけではない。

[12] Richter, Gerhard & Friedel, Helmut, *Gerhard Richter: Atlas*, Köln: Walther König, 2006.

[13] Ausst. Kat.: *Gerhard Richter: Werkübersicht/Catalogue raisonné 1962-1993*, Bonn: Kunst- und Ausstellungshalle der Bundesrepublik Deutschland GmbH, 1993.

[14] Jacobs, Brigitte, “Dokumentation”, in: *sediment: Mitteilungen zur Geschichte des Kunsthandels*, Nürnberg: Verlag für modene Kunst, 2004.

た海難事故を扱った「すべてが瓦礫と化したとき」（*Quick*, 24. April, 1966, S. 38-48 ＊写真は 42 頁）〔一覧表番号 6 〕と，「センセーション」に含まれるであろう，同じく第二次大戦末期に「死に別れ」になっていた兄弟の偶然の再会（ただしリヒターによって描かれ，切り抜かれたのは兄弟の再会前に亡くなった彼らの母親）を扱った「死んだ兄弟は隣にいた」（*Bunte*, 02. September, 1965, S. 20-22 ＊写真は 21 頁）〔一覧表番号 15〕との間にある内容的連関を認めずに外的分類を持ち込むのは乱暴であろう。

ミステレク＝プラッゲの依拠したヨーゼフ・カスパーによれば，1960 年代の旧西ドイツの週刊誌写真全体において犯罪者のように反社会的人間のそれが占める割合は 8 ％とされる[15]。それに対してリヒターの切り抜きにおいて，少なくとも現在まで執筆者が調査した 60 点の中では，明らかに犯罪「者」を写した写真は 3 点のみであり【「殺人犯にも愛は必要」（*Quick*, 11. Oktober, 1967, S. 80）〔一覧表番号 43〕，「兄弟の血」（*Stern*, 30. Oktober, 1966, 7-9 ＊該当写真は 9 頁。）〔一覧表番号 44〕，「老婦人の死」[16]（*Stern*, 15. Maerz, 1964, 32-37）〔一覧表番号 60〕】，のみならずそのうち描かれたのは 1 点に過ぎない。しかも，このうち一点については記事内容からして人物が殺人犯であることは二次的意味しか持たない。つまり，雑誌写真におけるモティーフの登場回数とリヒターが選択した画題とは必ずしも合致しないのであり，そうであるとすればなおさら，雑誌写真に対する分類をリヒターの画題選択に適用するのには無理があるといわざるを得まい。

2－1　犠牲者の写真

では，リヒターが好んで切り抜いた（そしてさらに描いた）画題とは何か。これはリヒターの代表作のひとつ『1977 年 10 月 18 日』（1988 年）にもあ

[15] Kasper, Josef, 1979, S. 86.　同書 160-167 頁において，殺害者の写真の掲載のされ方が分析されている。

[16] この記事にリヒターが切り抜いた写真は含まれていないが，フォト・ペインティング作品『プリンス・ストゥルヅァ／Prinz Sturdza』（1964）に描かれた男性像は，この記事の中で殺人容疑者として扱われている Sturdza と，顔と名前が一致する。

てはまることであるが，犯罪者の描写が少ないのに対して[17]，犯罪を含めて悲惨な出来事の犠牲者の画題は極めて多いということができる。以下，付属の一覧表の中から，雑誌記事の本文と照合した結果犠牲者あるいは被害者（動物も含む）の写真といい得るものを挙げよう。

番号	一覧表番号	記事名（和訳）	掲載誌と掲載頁	何の犠牲者か	絵画化
1	1	一隻から３つの死	Quick, 03, Maerz, 1963, 10-11 *10	海難事故	○
2	2	Quick は殺されたマダム，ヘルガ・マトゥーラの全足跡を追った	Quick 20. Februar, 1966, 16-24, 88-89 *23	殺人事件 運命	○
3	3	ヘルガ・マトゥーラとは誰だったのか？	Quick 27. Februar, 1966, 108-109 *109	殺人事件 運命	○
4	4	ひどい夏	Revue 06. Oktober, 1965, 14-19, 60-63 *18	誘拐殺人事件 性的欲望 戦争	×
5	6	すべてが瓦礫と化したとき	Quick 24. April, 1966, 38-48 *42	戦争 海難事故 運命	×
6	7	中国人が来る	Stern 24. Oktober, 1965, 16-22 *22	戦争 宗教対立 政治	×
7	8	毒の秘密	Quick 07. Juni, 1964, 56-64 *58	殺人事件（毒殺） 偶然 戦争	○
8	9	ジョン・F・ケネディの殺害後	Stern 05. Januar, 1964, 36-47 *45	暗殺 政治	○
9	10	地下室の死体	Stern 27. September, 1964, 74-84 *82	政治	○ （４点制作）
10	11	絞首台への自由飛行	Revue 08. Dezember, 1963, 20-22 *22	法 イデオロギー 政治社会	×

[17] なお，リヒターはヒトラーの切り抜き写真を描いた『ヒトラー』（1962？）を後に破棄している。他に加害者，犯罪者を描いた例としてナチスの安楽死政策に主導的役割を果したヴェルナー・ハイデの写真を描いた『ハイデ氏』（1965）がある。

11	13	地獄の回り道	Stern 10. September, 1967, 32-41 *34	政治 戦争	×
12	14	地獄の回り道	10. September, 1967, 32-41 *36	政治 戦争	×
13	33	テレビ番組表（マッターホルン）[18]	Quick 04. Juli, 1965, 92	野望 達成欲 事故 自然	×
14	47	稀少動物に生きる場はない	Stern 17. Oktober, 1965, 212-213 *212	人間の欲望	○
15	58	シカゴ血まみれの夜	Bunte 27. Juli, 1966, 12-14[19]	殺人事件	○ （8 点制作）

なお，この他に記事内容からして被害者（犠牲者）の意味を担い得る写真あるいは画像に，次のものがある。

16	5	兵士も不安	Quick 13. Oktober, 1963, 92-96 *92-93	戦争 優秀さ[20]	○
17	15	死んだ兄弟は隣にいた	Bunte 02. September, 1965, 20-22 *21	戦争[21]	○

以上，リヒターが切り抜いた犠牲者の写真は少なく見積もっても 15 枚あり，一覧表全体の 4 分の 1 以上を占めることになる。また，執筆者の調査に

[18] この写真は記事によっては旅行のイメージ写真として使われている。一覧表 33 番参照。

[19] なお，この記事そのものはリヒターが切り抜いた写真を含まない。ただし扱っている事件は同じである。

[20] 記事の内容によると，ドイツの都市が第二次世界大戦末期に英米軍によって集中的に空爆・破壊されたのはドイツ空軍の優秀さゆえであったとされる。それゆえ，この記事内容によれば，ドイツ人はその軍事的優秀さゆえに犠牲となったということもできる。ただし画像は加害者側のものである。

[21] 写真の女性自身は戦争で死んだわけではないが，子供の戦死を信じたまま亡くなった。

よっては出所が明らかにならなかったリヒターの切り抜き写真やリヒター作品にも，犯罪の犠牲者が扱われている例がある[22]。

なお，このグループに属する 17 枚（最後の 2 枚を含む）のうち，絵画化されたのは 10 点であるが，「地下室の死体」と「シカゴ血まみれの夜」はそれぞれ 4 点〔『ベーカー氏』『ベーカー夫人』『少年ベーカー』『少女ベーカー』(1965)〕と 8 点の連作〔『8 人の看護学生』(1966) は，8 点で 1 作品として扱われる〕として制作されている。

これらの画像の多くは死や破綻に関するものであるが，絵画化された 10 点のうち死を直接的に表示しているのは，氷塊の下敷きになった男性の死体写真を描いた『死者』(1963) のみである。リヒターが描き写したヘルガ・マトゥーラの写真はいずれも幸福感を湛えた生前写真であり，一覧表番号 2 の写真ではマトゥーラは結婚を約束した男性を従えて笑っている。同じくリヒターが 4 点の作品を制作した「地下室の死体」の中の写真も，誇らしく幸福そうな家族の記念写真である。しかし同時に彼らの笑顔は，この家族の主であったロバート・ベーカーの失脚（政治的隠蔽）という記事内容によって陰惨な意味合いを帯びる。また，「死んだ兄弟は隣にいた」の記事からリヒターは死んだ母親の生前写真を切り取り，描き写したが，一見すれば満足そうな表情を浮かべた中年女性が，実際にはその子供との再会が叶わぬままに亡くなった女性であるという記事内容とつきあわせてみるとき，そこには悲劇的な意味が加わるのである。

2－2　王室，王族の写真

名士・名族（ドイツ語の Prominenz）は，雑誌の読者層にとっては憧憬の対象としてしばしば誌面を賑わせた[23]。しかしリヒターの場合，どの王室や王

[22] 代表例が，画家本人らによってジョン・F・ケネディの未亡人ジャクリーン・ケネディを描いたとされる『傘を持つ女』(1964) であろう。ただしこれも出自が明らかにならなければジャクリーンの写真をもとにしたものかどうか分からない。注 30 も参照のこと。

[23] 特に女性の読者が多いとされる「Bunte」にはその傾向が強く，1962-67 年を通じてほぼ毎号いずれかの王族や王室，貴族の記事が掲載されている。

族（あるいは貴族）でもよかったわけではなく[24]，ドイツと関連の深い王室を取り上げているように見える[25]。

ただし以下に挙げた王室関連記事の中で実際に絵画として完成されたのは 2 点のみである。描かれた 2 つの写真に共通するのは，①いずれも少女の写真であるということ，記事の内容に関しては，②少女の将来を苦難が待ち構えていると記されていること，であろう。少女のユリアナ（後のオランダ女王）の写真には，弟妹のなかった彼女が女王となるべく馬術を習ったが，その後戦争のため国外逃亡を余儀なくされたという説明が付され，少女のアンネマリー（後のギリシャ女王）の記事には，ギリシャの政治経済と王室を取り巻く厳しい情勢が列挙されている[26]。

番号	一覧表番号	記事名（和訳）	掲載誌と掲載頁	絵画化
1	35	1937/1962 銀婚式の花嫁ユリアナ	Stern 06. Mai, 1962, 36-44 *38	○
2	36	再び家に：ベアトリクスとクラウス	Quick 15. Mai, 1966, 18-19	×

[24] 例えば「Bunte」にしばしば登場したタイのシリキット王妃（例：*Bunte*, 27. Januar, 1965, S. 70-73）や「グレース・ケリー」として知られるモナコ王妃（例：*Bunte*, 17. Februar, 1965, S. 12-15）はリヒターの切り抜き写真には含まれていない。

[25] 例えばオランダ王室は，1966 年にドイツ出身の外交官クラウス・フォン・アンスベルクと結婚したベアトリクスまで三代つづけてドイツ人が王配となった（フォン・アンスベルクはナチ党員だったためオランダ国内では結婚への反対意見が強かったとされるが，少なくともドイツ国内の週刊誌でこの問題が大きく報じられることはなかった）。また，当時のイラン王の 2 人目の妻ソラヤの母はドイツ人であったため，「Quick」はソラヤの母親の談話を連載したほどである（例：「私の娘ソラヤ」*Quick*, 21. Maerz, 1965, S. 52-60）。（リヒターも『ソラヤ』（1965）という作品を制作しているが，現在画像が残っていないため元の写真を特定することもできなかった。）デンマーク王女でギリシャ王妃となったアンネマリーの姑はドイツのハノーファー出身であり，イギリスのエリザベス女王についてはドイツとの親戚関係が強調されて報じられた（例：「エリザベスとドイツの親戚」*Revue*, 28. Februar, 1965, S. 20-26）。

[26] なお，1967 年末にアンネマリーとその夫コンスタンティノス 2 世は政情不安のためローマへ亡命した。これも雑誌で報じられている（*Bunte*, 27. Dezember, 1967, S. 8-11）。

3	37	ベアトリクスとクラウス　ハネムーンを終えて	Bunte 22. Juni, 1966, 42-51 *42	×
4	38	王族も少しずつ	Revue 06. September, 1964, 42-45 *45	○
5	39	女王のアクセサリー	Stern 16. Mai, 1965, 24-27 *26	×
6	40	私たちは5人になった	Bunte 25. Mai, 1966, 12-15 *15	×

なお，王族あるいはそれに属するものを写した写真ではないが，王族関連記事に以下の例がある。リヒターが切り抜いた部分の写真の群集はイランのパーレビ国王を称賛する群集とされるが，記事の内容はむしろ王を取り巻く国内外の不穏な状況[27]を強調している。

7	12	王は謀反人に生を与えた	Bunte 02. Februar, 1966, 16-20 *16-17	○

以上の「王族，王室に関する」切抜き写真から，リヒターが特にドイツにかかわりのある王族の記事を少なからず切り抜いたといえそうだ。しかし彼は幸福の絶頂にある[28]ベアトリクスやクラウスを描くことはせず，視覚的には幸福あるいは無垢な表情を湛えながら（「1937/1962 銀婚式の花嫁ユリアナ」「王族も少しずつ」「王は謀反人に生を与えた」），記事内容と併せるならば破綻や不幸を暗示する写真を描いた。切り抜かれた写真の中で明るい顔で上を見上げる群集（「王は謀反人に生を与えた」）のすぐ横には，彼らが見上げる国王を失脚させ，暗殺しようとする学生たちやイスラム原理主義者たちがいた。そして彼らは残酷な刑罰を受ける姿で写真映像として提示されてい

[27] 王の暗殺未遂事件や王の政策に対する国内外のデモ行進について約3頁が費やされている。ただし最後の1頁には王の政策によってもたらされた恩恵等肯定的内容が記されている。

[28] 注25に記したように，ドイツ国内での報道が少なかったとはいえ，ナチスに加担したクラウス・フォン・アンスベルクとベアトリクスとの結婚には反対もあった。

る。無邪気な顔で微笑むアンネマリー少女の写真の背景には，彼女が座るべき玉座を破壊しようとする軍人たちと疲弊した国土があるのである。

幸福あるいは無邪気な写真と悲惨な運命というこの二重構造は，いうまでもなく，そもそもこれらの雑誌記事とその写真自体が有していたものである（執筆者は雑誌写真について記述しているのであるから）。重要なのは，ほとんど毎週のように報じられていた王室，王族の記事の中からリヒターが切り抜き，さらに描き写した写真がこうした二重構造を有していたということである。

2－3　性愛，恋愛に関する写真

「犠牲者の写真」にも，ヘルガ・マトゥーラのように悲劇的結末を迎えた恋愛の例があるが，ここでは実際に悲劇あるいは殺人等の決定的事態に至らなくとも，至る可能性を示唆した記事を挙げよう。なお，以下の 4 点は全て絵画化されているが，一覧表に記したように，「千零夜」の該当記事はリヒター作品の直接の元型となった写真を含まない。

番号	一覧表番号	記事名（和訳）	掲載誌と掲載頁	絵画化
1	41	ガルダ湖の愛	Quick 01. August, 1965, 26-32 *26	△[29]
2	42	賢い恋愛を	Revue 18. Mai, 1966, 48-51 *48-49	○
3	45	第六の掟	Quick 08. Mai, 1966, 44-52 *50	○
4	59	千零夜	Quick 25. Maerz, 1962, 8-12	○

以下の 2 点は犯罪にも関与する例であるが，性愛に関する例として挙げて

[29] ただし切り抜きの形状から，リヒターが切り抜いたのはこの記事からではない可能性もある（写真は全く同じ）。

おく。「殺人犯にも愛は必要」においては（二人が手を取って家に向かう）該当写真においても記事の文章においても犯罪より愛が主題となっているが，「兄弟の血」においては性愛よりもむしろ男性の裏切りが主題といえよう。

5	43	殺人犯にも愛は必要	Quick 11. Oktober, 1967, 80	×
6	44	兄弟の血	Stern 30. Oktober, 1966, 7-9 *9	×

（主として男性の）裏切りによる性愛や結婚生活の破綻という主題は，既出の「賢い恋愛を」，「第六の掟」，「千零夜」にも共通する。なお，執筆者が出自を発見していないものの，『アトラス』8番等にも女性の愛を裏切る男性を（切り抜かれた部分に残ったキャプションが）明示している切抜きがある[30]。

これらの例から，リヒターは愛と結婚生活の裏切りと破綻というテーマを好んだのではないかと推測できるが，選ばれた写真とそこから描かれた作品に表されているのは，抱き合い，頬を寄せ合う男女〔記事「ガルダ湖の愛」→絵画『2組のカップル』(1966)，記事「賢い恋愛を」→『森の中のカップル』(1966)〕や結婚式の夫婦〔記事「第六の掟」→絵画『結婚式のカップル（青）』(1966)〕である。ここでは，加害者の男性のみが描かれることはない（「兄弟の血」の写真の男性たちは描かれていない）。

従ってここでも，写真として，視覚的に提示されている情報（愛し合うカップル）と，文章中に与えられているがゆえに写真にも付与され得る意味（愛の裏切り）とが意味の二重構造，対立構造を生み出している。一方では，愛し合うカップルの幸福が，他方ではその破綻が，1枚の画像によって伝達されようとしているのである。

[30]『アトラス』8番の切り抜き写真に付されたキャプションの例を挙げよう。「跡形もなく消えた。アンナ・デルシュタインとロタール，ペーター，エーヴァルトの息子たち。夫のデルシュタインが殺人容疑で逮捕」，「アルマ・ベルヴィンケルは1944年にベルリンで死んだ，心臓麻痺によって ── と，彼女の夫はいった。しかし14年後に真相が明るみに……」。これらは「犠牲者」の画像に含まれる可能性もある。

2－4　旅行，休暇に関する写真

番号	一覧表番号	記事名（和訳）	掲載誌と掲載頁	絵画化
1	25	トランクから島	Stern 22. Mai, 1966, 26-29 *29	×
2	26	BFA―スポーツゴムボート	Stern 13. Febrary. 1966, 112	×
3	27	インスタマティック	Bunte 14. Juli, 1965, 19	○
4	28	旅の情報誌：バイエルン	Quick 09. Mai, 1965, 56[31]	○
5	29	旅の情報誌：バイエルン	Quick 09. Mai, 1965, 56	○
6	30	シュテルンの旅：ベルギー旅行のヒント	Stern 03. April, 1966, 106-116 *110	○
7	31	USA―空の旅	Quick 04. April, 1965, 91	○
8	32	エルサレムを知っていますか？	Quick 07. November, 1965, 70-71 *70	△[32]
9	34	ハンブルク	Stern 27. Oktober, 1963, 30-40, 154-163 *154	○
10	57	バハマ	Stern 23. April, 1967, 183	×

毎年夏季休暇を前に各誌面を賑わせたのが各地の旅行案内やツアー紹介，旅先での休暇に使う器具等についての広告であった。リヒターはこれら休暇に関する写真を（「Stern」以下本稿が対象とする 4 誌から）少なくとも上記

[31] 本稿では同誌掲載のノイシュヴァンシュタイン城の写真を挙げているが，一覧にあるようにノイシュヴァンシュタイン城を写した同じ写真は繰り返し使用されているため，どれがリヒターの切り抜いた写真かは確定できない。執筆者は「Bunte」（01. Mai, 1963）掲載写真（同 52-53 頁）が，色彩や構図の点から，最もリヒターの絵画作品『ノイシュヴァンシュタイン城』（1963）に類似していると考えている。

[32] リヒターは『アトラス』（No.5）にこの記事の切り抜き写真を貼付している。しかし彼が描いたピラミッドとスフィンクスの画像（例：『ギゼの大スフィンクス』（1964），『ギゼのスフィンクス』（1964），『小さなピラミッド』（1964））はいずれもこの切抜きをもとに描かれたものではなく，特定のガイドブックからの切り抜きと思われる。

の 10 枚，切り抜いている。

その他，既に前項に挙げた写真の中にも内容的に休暇，旅行の項目に含まれ得るものがある。

12	41	ガルダ湖の愛	Quick 01. August, 1965, 26-32 *26	○

執筆者は以上の写真をこの項目に分類したが，これらの写真の多くには概して文章が少ない。従ってこれらの写真のいかなる意味にリヒターが着目して切り抜き，描いたのかを判断するための材料は極めて乏しい。特筆されるのは，10 点のうち 3 点をドイツ国内の写真が占める上に，その 3 点全てが描かれていることであろう。3 点はいずれもいわば「典型的なドイツ」の写真（ノイシュヴァンシュタイン城，ハンブルクの夜景，バイエルンの民族衣装をまとった船頭）である。この中でハンブルクの夜景が掲載されたもとの記事には，この都市が蒙った第二次大戦の戦禍とそこからの復興についての記述がある。そのため記事を読んだ者には，写真の煌く夜景にその苦難と復興の歴史が重複して見えることもあるだろう。その意味で，少なくともこの夜景写真には前述の二重性，つまり幸福と苦難，が認められる。

その他，水辺の休暇に関する 3 つの写真(「トランクから島」，「スポーツゴムボート」，「インスタマティック」)には，リヒターが繰り返し描いた水辺の家族写真との類似性が認められる。例えば，『テレーズ・アンテツカ』(1964)，『レナーテとマリアンネ』(1964)，『海辺の家族』(1964) 等の作品群である。『テレーズ・アンテツカ』(1964) は明らかに雑誌写真の切り抜きをもとに描かれた作品であるが，現在もとの記事は執筆者にも判っていない。しかし一部描き写された文字「奇跡的救出！　テレーズ・アンテツカのその夫のフラン……」から推測するに，もとの写真に写された女性は何らかの危険や苦境を「奇跡／不思議／ein Wunder」によって切り抜けた人物として提示されたのであろう。また，『レナーテとマリアンネ』(1964) はリヒターの家族写真からの描き写しであるが，マリアンネがナチスの安楽死政策によって隔離と

死に至ったことは，本稿冒頭に記したように，特にユルゲン・シュライバーの指摘によって大きく報じられた。これらの例から，「水遊びを楽しむ家族やグループ」というリヒターお決まりの画像が，画家にとって他方では不運や苦難をも意味し得るのではないかと推測できる。

また，これも推測であるが，「シュテルンの旅：ベルギー旅行のヒント」の該当写真（ベルギーの秋の名物である鹿狩りの情景）を描き写した理由としては，リヒターが若い頃林務官になりたかったというほど鹿好きであったことや[33]，ゲントの祭壇画（ファン・エイクの作とされる）が該当写真のすぐ上に掲示されていること等が考えられる（リヒターは，ゲントにもその作品がある画家グリューネバルトについて発言がある[34]）。該当写真は『アトラス』11 番に貼付されているが，鹿狩の該当写真の周囲には鹿の写真が 2 枚貼付されている。いずれも野生の牡鹿（草原で角を誇示している）であるため，ここでも対比が行なわれていると観ることができる。つまり，一方ではその野生と強さを誇示する牡鹿の姿が，他方では，彼らの生を脅かし，死をもたらす人間の存在が，一枚のパネルの上に並示されているのである。ただしここでは彼が描いたのは，加害者である人間であった[35]。

また，「USA-空の旅」でリヒターが切り抜き，描いたのはナイヤガラの滝の写真である。リヒターはやはり『アトラス』11 番に滝の写真を貼り付けているが（『アトラス』公表時にもはや手元にナイヤガラの滝の写真がなかったので代替として貼り付けたものかもしれない），この選択について執筆者はリヒターのロマン主義的性格にその理由があると考えている。これについては

---

[33] Elger, Dietmar, *Gerhard Richer, Maler*, Köln: DuMont, 2002, S. 14

[34]「芸術は常に本質的には苦境や絶望，無力とかかわっていた（私が考えているのは中世からグリューネバルトまでの磔刑図の歴史であり，ルネサンスの肖像であり，モンドリアンやレンブラント，あるいはドナテロやポロックだ）……」（Richter, Gerhard, “Notizen 1983”, in: *Gerhard Richter Text*, hrsg., Hans-Ulrich Obrist, Frankfurt am Main/Leipzig: Insel Verlag, 1993/1996, S. 95）

[35] ただし，リヒターの初期作品に『鹿』（1963），『鹿Ⅱ』（1966）がある他，鹿の角を描いた作品（『ノロジカの角』（1965））や『枝角』（1967）もある。

稿を改めて論じよう。

2－5　広告

前項（「旅行，休暇に関する写真」）と一部重複するが，広告の切り抜きも多いため，以下に挙げておく。なお，ここで「広告」に分類するのは，分量として１頁（見開きは１頁に数える）以下で，雑誌の本文でないもの（雑誌の特集としての「おすすめツアー」や「おすすめファッション」等は除く）である。

番号	一覧表番号	記事名（和訳）	掲載誌と掲載頁	絵画化
1	17	サロッティ・ミルク入りチョコレート	Bunte 10. Maerz, 1965, 8	○
2	18	毎週 4 ポンド減量！	Quick 07. Mai, 1967, 97	×
3	19	明日から痩せる	Stern 10. Oktober, 1965, 218	○
4	20	レーベン，ライストゥング，レシチン	Stern 26. September, 1965, 173	×
5	21	料理の本	Stern 15. Mai, 1966, 95	×
6	22	マーガリン	Revue 06. Juni, 1965, 55	×
7	23	イギリスから来た奇跡の薬	Stern 02. April, 1967, 173	×
8	24	絨毯のキベック	Bunte 01. Dezember, 1966, 116	×
9	56	ミーレ（洗濯機の広告）	Stern 18. Oktober, 1964, 137	○

広告からの切り抜きは，現在判っている 60 枚のうち 9 枚にのぼる（前項の旅行写真のうち，「広告」にも分類され得る 4 枚を加えるならば，13 枚である）。これらは１頁以下の広告記事であるため，前項よりさらに文章が少ない。また，描き写された（絵画化された）例も少ないといえる。

「サロッティ・ミルク入りチョコレート」の写真は，横長の写真のうち車の

部分だけが切り取られ，もう 1 枚の同じ広告写真の切り抜きと上下並べて『アトラス』7 番に貼付された後，描き写されて『2 台のフィアット』（1964）という作品となった。従ってもとの写真がチョコレートの広告に使われたものだとはまずわからない。この作例については，車のスピードを表す横線と，リヒターが多用する絵具の線との類似が指摘できよう。

「明日から痩せる」は『ニーペンベルク夫人』（1965）の名で描き写された。これについては前出のミステレク=プラッゲに対するリヒターの発言から，昔の知り合いを彼に想起させたところから選択されたらしいことが判っている。これも微笑む女性の画像であるが，リヒターはそこに俗物的人間の典型を見たようである。

「ミーレ」は，『アトラス』 5 番に貼付されている写真ではなお洗濯機と並べられている（元の広告では洗濯機のコンパクトさを強調するために小さい椅子が並べられている）が，リヒターが描いた『小椅子』（1965）では洗濯機は外され，暗い背景に簡素な椅子のみが描かれている。これは 1965 年にリヒターが繰り返して描いた 3 点の椅子シリーズ〔『台所の椅子』，『横から見た椅子』，『小椅子』（1965）〕の中の 1 点である。リヒターは 1986 年のインタヴューでこうした簡素で「粗末な」椅子のかもし出す「雰囲気／Stimmung」について語っている[36]。

2－6　その他

現カタログ・レゾネによってリヒターのフォト・ペインティング第二作目とされている『アイススケーター（女性）』（1962）のもとの写真は，1963 年 3 月 17 日号の「Bunte」に掲載されたもの（同 6 頁）である。従って，同作を 1962 年制作とするのは誤りである[37]。

---

[36] Richter, Gerhard, “Interview mit Christiane Vielhaber (1986)”, in: *Gerhard Richter Text 1961 bis 2007*, hrsg., Dietmar Elger & Hans-Ulrich Obrist, Köln: Walther König, 2008, S.192

[37] 同様に，リヒターのフォト・ペインティング第一作目とされる『テーブル』（1962）も，少なくとも執筆者の現在までの調査では，該当の雑誌（「domus」）の 1962 年に写真が見

描き写された『アイススケーター（女性）』は，もとの写真ではマリカ・キリウスというアイス・ダンスの人気選手である〔一覧表番号 51〕。彼女については執筆者が取り上げた 1962 年以降 1966 年頃まで各誌が取り上げているが（特に「Quick」は 1964 年に「当人たちが語る／Wir über uns」などと題して連載を組んだ），それらの記事によれば，キリウスとボイムラーは 1962 年のプラハ大会で，転倒によってまさかの大敗北を喫した。つまりリヒターが切り抜き，描いた 1963 年 3 月のコルティーナ・ダンペッツォ大会でライヴァルをもうならせたと書かれた大勝利の裏には，絶望と苦難があったのである。

『階段を下りる女性』（1965）は，当時 40 歳になった舞踏家リュドミラ・チェリーナの美を称賛する記事の切り抜きを描いた作例である〔一覧表番号 49〕。豪華な服装で階段を堂々と優雅に下りてくる女性は，しかし 1962 年 4 月 18 日号の「Bunte」が報じるところでは，深刻な病気を抱えていた。ここでも，優雅な女性の動きには苦難が隠されているといえるだろう。

2－7　まとめ

以上，「Stern」以下 4 誌の調査結果からリヒターが選択した写真の傾向について記述してきた。２－５の他，本文中に挙げなかった例を含めていまだ説明のつかない例は少なくないが，少なくとも２－１（「犠牲者の写真」），２－２（「王室，王族の写真」），２－３（性愛，恋愛に関する写真）），２－６（「その他」）の例から，リヒターが好んで選択した写真の意味上の一傾向が明らかになったのはないかと思われる。つまり，表面上は（視覚的情報としては）満足や幸福を表わしているのに対し，意味内容としてはその幸福に至るまでの苦難やその幸福の破綻を表わす，という二重構造である。リヒターが選択し，描いた作品の中の人々は，あるときは豪華に，満ち足りた様子で，微笑んでいる。しかしその同じ人々が思いがけない裏切りや事故によってあるときは命を落とし，あるときは艱難の末に生還する。そしておそらくは ── リヒターが切り抜いた画像にドイツを暗示する例が多いところから ── 画家に

つかっていないので，時期が下がる可能性がある。

とって，災難と不運に見舞われた犠牲者，苦難の末に立ち直ろうとする犠牲者の姿にドイツの歴史が重なって見えたのではないか。

結語

「はじめに」で述べたように，本稿は「Stern」他 4 つの週刊誌の中から 1962-1967 年の時期にゲルハルト・リヒターが切り抜いた雑誌記事を特定し，記事内容を参照することで，リヒターの写真選択にいかなる（意味上の）傾向があるかを明らかにしようとする試みであった。本稿第二部に記したように，リヒターの選択した写真には，一見無垢や幸福を示す写真であってもその裏には事故や苦難が意味されていることが多い。その代表的な例が「犠牲者」の写真群といえるだろう。

しかし，本稿で「犠牲者」に分類した写真群の中にも，結果的に描かれなかったとはいえ「地獄の回り道」のローゼマリー・T のように苦難を乗り越えて幸福をつかんだ例がある。「２－６」に挙げた 2 点（『アイススケーター（女性）』と『階段を下りる女性』）もやはり転倒や病気を克服して，たとえいっときにせよ勝利をつかんだ「しぶとい」例といえるだろう。これらの例は，なすすべなく事故や犯罪の犠牲となった（「シカゴ血まれの夜」や「１隻から３つの死」などの）いわば「完全な犠牲者」の例とは一線を画すべきなのかもしれない。前者が（「犠牲者」の諸例が）表面的幸福感ゆえにかえって陰惨さを強調し，絶望すら意味し得るのに対して，後者はむしろ苦難の克服と希望を表わし得るからである。

画家ゲルハルト・リヒターは，絵画の「形式」を強調する批評家ベンジャミン・ブクローらに対して繰り返し絵画の「内容」主義を標榜してきた（注６参照）。つまり，画家にとって「何を」描くかという問題は常に重要であったのにも拘らず，これまで多くの研究者は表面的な画題や様式の多彩さに惑わされてその意味的一貫性を問おうとしてこなかったのである。ミステレク＝プラッゲの研究は執筆者に研究の糸口を与えてくれたが，写真と絵画は別物であると考えた彼女は，画家が探している画題が写真の中にあったので

はないか ── いいかえれば，リヒターは写真の中に描くべき対象を見出したがゆえに描き写したのであって，そうであれば写真と絵画の間には連続性が見出されるべきだ ── という点を追及することがなかった。

本稿が導き出した写真と絵画の二重性（「絶望」と「希望」，「幸福」と「不幸」）は，リヒターの発言の中にもうかがうことのできる特性である。執筆者は次に改めてこれらの概念について整理し，本稿の内容と対照させることで，一貫して彼が追求してきた画題 ── 彼が何を描こうとしてきたのか ── について論じたい。

本稿は，平成 19 年度～平成 21 年度文部科学省科学研究費補助金若手研究（B）「ゲルハルト・リヒターの政治的フォト・ペインティング作品についての基礎的研究」（研究代表者：浅沼敬子，課題番号 19720021）による成果の一部である。

＊「Stern」では目次に記されている発行日と表紙記載の発行日にずれがあるが，本稿では表紙記載を優先させた。

＊「発行年月日，頁」の項目は本表では削除した（本文中に挙げた例については発行年月日が明記されている）。

必要があれば執筆者まで問い合わせのこと（asa＠let.hokudai.ac.jp）。

一覧表番号	該当写真	記事名（簡略化）	掲載誌	テクストの概要	雑誌写真についての備考	絵画化の有無
	■リヒターが切り抜いた（Atlas に含まれていないものも含む）のが確実な画像					
1	氷塊，男性	一隻から 3 つの死/Ein Schiff schickt drei Tote	Quick	入港直前のアメリカの船「Gwendoline Steers」が突然方向を変えて入り江を去った。無線も途絶える。救助も氷結や不可解な事故が重なってうまくいかず。3 人が落命。		○
2	女性と青年（若者）	Quick は殺されたマダム，ヘルガ・マトゥーラの全足跡を追った/QUICK ging allen Spuren der ermordeten Lebedame Halga Matura nach	Quick	ヘルガ・マトゥーラの生涯を辿る。良識ある一般的家庭で育ったが結婚に失敗。ミス・ラインラントに挑戦するも 2 番手。仕事の能力も「ゼロ」。サウジアラビア王子等男性を惹きつけたが破綻，賭けで摩るなどお金にも恵まれなかった。	ヘルガ・マトゥーラは 1966 年 1 月 27 日に変死したフランクフルトの娼婦（死亡当時 32 歳）。	○
3	女性	ヘルガ・マトゥーラとは誰だったのか？/Wer war Helga Matura?	Quick	ヘルガ・マトゥーラが離婚後さまざまな恋愛遍歴を経て，フランクフルトの娼婦になるまでを略述。同号では彼女の「晩年」の恋愛（17 歳の少年ハートムート・ビーンと 16 歳のライナー・ゼーゲート）について詳述。いずれの青年とも彼女は結婚と更生を望んだがビーンには裏切られ，ゼーゲートとの結婚生活は彼女の死によって叶えられず。	Revue（16. Maerz, 1966）に掲載例有り。こちらはヘルガ・マトゥーラの記事に対する反響（「なぜ誰も彼女を助けられなかったのか」という同情や「なぜ彼女を悼まねばならないのか」という批判的コメントも）。	○
4	家族写真，乳児	ひどい夏/Der schreckliche Sommer	Revue	当時西ドイツで多発した幼児殺害や失踪事件の報道。特にイギリス人軍人によって殺され（窒息死），死体遺棄された少女（ハイデマリー・シーマン，事件当時 12 歳）の失踪から捜査，逮捕までを時間を追って詳述。		×
5	爆弾を落とす戦闘機	兵士も不安/Auch Soldaten haben Angst	Quick	『Tausend Tage ueber Deutschland』（Werner Girbig, J. F. Lehmans Verlag）の内容を紹介。1943 年 8 月 17 日，アメリカ軍（空軍）はドイツ軍により深刻な打撃を受ける。同年 10 月 14 日のシュヴァインフルト空爆（同地に軍需施設があった）に代表される連合軍のドイツ空爆が激化した背景には，ドイツの戦闘機に対するアメリカ軍の恐怖があったとする。	Neue（14. Januar, 1962）にも同画像が使用されている。	○

一覧表番号	該当写真	記事名（簡略化）	掲載誌	テクストの概要	雑誌写真についての備考	絵画化の有無
	■リヒターが切り抜いた（Atlas に含まれていないものも含む）のが確実な画像					
6	船着場の雑踏	すべてが瓦礫と化したとき/Als alles in Scherben fiel	Quick	1945 年 1 月 30 日。ソ連軍の近づく「東プロイセン」地区からの逃亡者を乗せた 4 隻のうち「ヴィルヘルム・グストロフ」号がソ連軍の攻撃により撃沈。生存者のひとりパウル・ウシュトラヴァイト（Paul Uschdraweit）の証言を交えつつ，女性や子供を含む推定 3700 人以上が命を落とした事件と，ソ連軍からの逃亡の様子を再構成。		×
7	散乱する死体と群がるハゲタカ	中国人が来る/Die Chinesen kommen	Stern	1947 年の独立以後つづいたインドとパキスタンの宗教闘争。特にイスラム教徒の住民を多く抱えながらヒンドゥー教の王朝が置かれたカシミール地方での戦闘は過酷を極めた。（写真はカシミールにおける 1949 年の闘いの後の情景とされる。）中国はパキスタンへの援助を繰り返してきたが，1965 年，シキム－チベット間の境界に配されたインド軍の撤退をインドに迫った。		×
8	笑顔の中年女性（顔写真）	毒の秘密/Das Geheimnis der Gifte	Quick	毒殺事件シリーズのひとつ。クリスタ・レーマンは農薬を仕込んだチョコレートで隣人を殺害しようとするが誤ってその娘であり自らの友人でもあったアニー・ハーマンを殺害（1954 年 2 月）。レーマンにはその夫と舅の毒殺容疑があり証拠がなく検挙を免れていたが，ハーマンの死後レーマンの使用した薬が 1934-45 年にドイツで開発された E 605 と呼ばれる農薬であったことが判明。		○
9	ピラを配る男	ジョン・F・ケネディの殺害後/Nach John F. Kennedys Ermordung	Stern	ケネディの死後大統領となったリンドン・ジョンソンは気さくな人柄で国民の人気も高い。ジョンソンは就任後ケネディの死の真相解明のために調査班を設立したが，その報告書には FBI の報告との矛盾が認められる。報告書ではケネディ暗殺とその暗殺者オズワルドの暗殺はそれぞれ単独の犯行とされる。また，オズワルドの性格の異常さが異様に強調されている。ジョンソンはケネディ暗殺の地テキサス（同地ではケネディは不人気）の出身である。	Stern（15. Dezember, 1963, 13）に同画像あり。	○
10	室内の家族写真	地下室の死体/Die Leiche im Keller	Stern	リンドン・ジョンソン大統領の長年の「腹心」であった「ボビー」（ロバート）・ベーカーの半生。南カロライナの貧しい少年から民主党の秘書にのぼった。政治家たちとの近しい付き合いを活かした不法な蓄財が発覚して失脚。		○

ゲルハルト・リヒターのフォト・ペインティング作品（1962-67 年）に使用された写真群について

一覧表番号	該当写真	記事名（簡略化）	掲載誌	テクストの概要	雑誌写真についての備考	絵画化の有無
	■リヒターが切り抜いた（Atlas に含まれていないものも含む）のが確実な画像					
11	祈る男性	絞首台への自由飛行/Freiflug zum Galgen	Revue	トルコ国籍のクルド人 Hüseyin Adigüzel はミュンヘンで電気工学を学ぶ留学生。スパイ容疑でトルコへの強制送還が決定。彼はクルド独立運動に加担していたため，トルコに帰国すれば大逆罪で死刑判決を受けた同志たちとともに，死を免れ得ない。		×
12	群集	王は謀反人に生を与えた/Der Schah schenkte den Verschwoerern das Leben	Bunte	イランのモハンマド・レザー・パフラヴィー国王は 1963 年からイランの近代化（特に土地改革）を推進。1962 年には国王暗殺事件が勃発したが，それを計画した咎で死刑を宣告された学生（Achmed Kamrani と Achmed Mansuri）を彼は終身刑に減刑，国民の賞賛を得た。しかし王に対しては国内外で批判のデモが行なわれている。他方，土地を得た農民や選挙権を得た女性からは国王の政策は歓迎されている。		○
13	水着の女性たち	地獄の回り道/Umweg durch die Hoelle	Stern	ハンブルクのローゼマリー・T は，東ベルリンに残した母親と弟のハンガリー経由の亡命を計画（彼らは保養を装ってハンガリーの水浴場で会合）。しかし失敗し，ハンガリーで過酷な状況の下約 1 年間の強制労働と禁固刑を受けた。同時に捕まった母親は刑務所入りとなったため娘より早く西へ逃れた。西ドイツ人の「東側」諸国家の保養地への旅行は増加傾向にあったという。		×
14	水着の女性たち	地獄の回り道/Umweg durch die Hoelle	Stern	（同上）		×
15	中年女性の顔写真	死んだ兄弟は隣にいた/Der tote Bruder lebte nebenan	Bunte	ヨーゼフ・フランツェは職場にアルバイトに来た若者を見て自らの甥（弟の子供）であることを認める。それが契機となり互いに戦死したと聞かされていた兄弟ヨーゼフとアルトゥールは再会。しかし母親は既に他界しており，兄弟は彼女の墓参りに行く。	調査誌に表紙なし。	○
16	郊外，道，木，家	紳士たちがインタヴューを申し込む/Die gentlemen bitten zum Interview	Stern	「史上最大の盗難事件」とされた郵便列車盗難事件の実行犯の一人ジェームズ・ホワイトから 4 月 17 日に Stern ロンドン支局長に面会の電話。支局長は面会の際，事件後の逃走生活を綴ったホワイトの自筆原稿と引換に犯罪者の妻子の面倒を見る約束をした。ホワイトは事件と逃亡生活を詳述。盗みの分け前は隠れ家の家賃等で消えていったという。	なお，1 週間後の Stern（08. Mai, 1966）ではホワイトの逮捕が報じられている。	×

一覧表番号	該当写真	記事名（簡略化）	掲載誌	テクストの概要	雑誌写真についての備考	絵画化の有無
	■リヒターが切り抜いた（Atlas に含まれていないものも含む）のが確実な画像					
17	走り去る車	サロッティ・ミルク入りチョコレート/Sarotti-Vollmilch	Bunte	「Sarotti-Vollmilch-Schokolade」（全乳入チョコレート）の広告。	Bunte（31. Maerz, 1965, 119）（14. April, 1965）等，掲載例多数。	○
18	ソファの上で本を読む女性	毎週 4 ポンド減量！/4 Pfund jede Woche abnehmen!	Quick	「Vibra-Masseur」と呼ばれる器械マッサージによるダイエット（広告）。	掲載例多数。	×
19	屋外，ベンチ，女性	明日から痩せる/Ab morgen werde ich schlank	Stern	「Vollweizen-Gel」（商品名）を日々摂取し，3 年で 80 キロの減量に成功したという体験談と摂取方法の紹介。同製品は古典古代から知られていた小麦ダイエットの現代版だという。	Stern（12. September, 1965, 9）にも掲載例有り。	○
20	群集	レーベン（生きること），ライストゥング（やり遂げること），レシチン/Leben, Leistung, Lecithin	Stern	「Buerlecithin」という滋養強壮剤（現代生活で萎えた神経や筋肉といった体内組織を活性化させるという薬）の広告。		×
21	野外でテーブルを囲む家族	料理の本：Kochbuch	Stern	食餌法に関する小本（50 ペニヒ）の広告。大人が忙しい現代生活を切り抜け，子供たちが健康に育つための食餌法を同書が伝授するという。(ただし食餌法の本を売りたいのか，その本によって食品を売りたいのかは不明)。	同じ広告が Quick（25. September, 1966, 97）にもある。	×
22	林	マーガリン：Margarine	Revue	「Margarine」（商品名）の広告。夕食後の散歩や軽めの夕食同様南国産植物油を使った「Margarine」が健康によいとする。	Stern（13. Juni, 1965, 73），Bunte（26. Mai, 1965, 93）等，掲載例多数。	×
23	巨大なキャベツを持つ女性	イギリスから来た奇跡の薬：Ein englisches Wundermittel	Stern	イギリスで開発されたという作物の生長に驚異的効果を持つタブレット型農薬の広告。	Stern（15. Mai, 1966, 167）等に掲載例多数。	×
24	カーペットを広げる男性	絨毯のキベック/Kibek-Teppich	Bunte	Teppich-Kibek 社のカーペット類についての広告。	Bunte（21. Dezmber, 1966, 66）にも掲載例有り。	○
25	器材を持つ水着姿の人々	トランクから島/Die Insel aus dem Kofferraum	Stern	携帯「島」の広告記事。車のトランクに入れて持ち運び可能，組み立てれば海上や湖上に日除け付きの「島」ができる。組み立て方，用途を，写真を使って解説。		×
26	水上ボート	BFA-スポーツゴムボート/BFA-Sportschlauchboote	Stern	ボートの広告（「休暇と週末に」と連絡先以外の記載はない）		×
27	水上ボート，家族	インスタマティック/Instamatic	Stern	「インスタマティック 500」カメラの広告。「インスタマティック」カメラは休日を上手に撮影。	Bunte（14. Juli, 1965, 19）にも掲載例有り。	○
28	ノイシュヴァンシュタイン城	旅の情報誌：バイエルン/Ferien magazine: Bayern	Quick	各旅行会社が推薦するバイエルン・ツアーの紹介。	Bunte（12. August, 1964）等掲載例多数。カラーの上，文字等で遮られていないため，Bunte（01. Mai, 1963）がリヒター作品に類似して見える。	○

ゲルハルト・リヒターのフォト・ペインティング作品（1962-67 年）に使用された写真群について

一覧表番号	該当写真	記事名（簡略化）	掲載誌	テクストの概要	雑誌写真についての備考	絵画化の有無
	■リヒターが切り抜いた（Atlas に含まれていないものも含む）のが確実な画像					
29	観光船，民俗衣装	旅（休暇）の情報誌：バイエルン/Ferien magazine: Bayern	Quick	各旅行会社が推薦するバイエルン・ツアーの紹介。		○
30	猟犬と狩人	シュテルンの旅：ベルギー旅行のヒント/Stern Reise: Ferientips fuer Belgien	Stern	ベルギーの旅行案内。ベルギーの魅力（よく手入れされた家々，50 キロ以内に見所が集約されている都市の規模）や名物（写真はベルギーを特徴付ける「4 つの音：グロッケンシュピール，風，波の音，秋の狩猟用角笛の音」のうち秋の鹿狩りの情景）を紹介。		○
31	滝（ナイヤガラ）	USA―空の旅/USA-Flugreise	Quick	BOAC 社による 16 日間のアメリカ周遊旅行の広告。	Revue（04. April, 1965, 29），Bunte（31. Maerz, 1965, 71）等に掲載例。	○
32	ピラミッド，スフィンクス	エルサレムを知っていますか？/Kennen Sie Jerusalem?（Nehmen Sie Kurs auf die Sonne!）	Quick	中近東旅行の見所を紹介した記事兼広告。		○
33	登山家と高山	テレビ番組表（マッターホルン）/TV Programm（Matterhorn）	Quick	マッターホルン登山の特集番組。（例）1865 年 7 月 14 日にイギリス人登山家エドワード・ウィンパー（Edward Whymper）がマッターホルン登頂に成功したがその直後にグループの 4 人が転落死。その後も 8 万もの人が登頂を試み，約 200 人が命を落とした。	同じ画像が Quick（16. Mai, 1965, 63）にもある。こちらはアルプス旅行のイメージ画像（「マッターホルン，登山家の目標」）。	×
34	運河の夜景	ハンブルク/Hamburg	Stern	ドイツきっての大都市ハンブルクの滞在レポート。ハンブルクの港町としての歴史，第二次世界大戦における爆撃とその後の復興や，男性が必ずネクタイを締める等そこに住む人々の気質や特質，生活を，滞在記のかたちで紹介。		○
35	馬上の少女	1937/1962 銀婚式の花嫁ユリアナ/1937/1962 Silberbraut Juliana	Stern	オランダ女王ユリアナの 4 月 30 日の 53 回目の誕生日兼銀婚式（本来は 1 月 7 日）を記念して，彼女の生涯を回顧。一人っ子だったユリアナは愛犬を可愛がる一方，王位継承者として早くから馬術に励んだがオランダはその後第一次大戦に突入。ユリアナの夫となったドイツ，リッペ-ビースターフェルト公ベルンハルトとの間に 4 人娘たちをもうけた。	同じ画像が Stern（06. Maerz, 1966, 90）にも使用されている。こちらの記事はユリアナの娘で次期女王のベアトリクスとドイツの外交官であったクラウス・フォン・アンスベルクの結婚に関する記事。	○
36	白い建物，木々	再び家に：ベアトリクスとクラウス/Wieder zu Hause: Beatrix & Claus	Quick	オランダの王位継承者ベアトリクス（当時）とその新夫クラウス（ドイツ出身）による，メキシコのコズメル島滞在を含む 4 週間のハネムーン。		×

一覧表番号	該当写真	記事名（簡略化）	掲載誌	テクストの概要	雑誌写真についての備考	絵画化の有無
	■リヒターが切り抜いた（Atlas に含まれていないものも含む）のが確実な画像					
37	笑顔の女性	ベアトリクスとクラウス　ハネムーンを終えて/Beatrix und Claus nach den Flitterwochen	Bunte	ベアトリクスとクラウスがハネムーンから帰って来ない，ユリアナ王妃がベアトリクス王女のために近々退位する，といった噂が他誌（Neue）で報じられていたという。そうした噂に対して，同誌は公務中のベアトリクスとクラウスの写真やユリアナ王妃の退位否定発言等を掲載して対抗。		×
38	3 人の少女	王族も少しずつ/Auch Koenige fangen klein an	Revue	デンマークの第三王女アンネマリーとギリシャ新国王コンスタンティノスの結婚関連記事。若いコンスタンティノスの王位を取り巻くギリシャの厳しい政治，経済，社会情勢を説明。	Bunte（27. Dezember, 1967）にコンスタンティノスとアンネマリーのクーデターによる逃亡記事。	○
39	装飾品，宝石	女王のアクセサリー/Der Schmuck der Koenigin	Stern	エリザベス 2 世のドイツ訪問記念特集の一項目。エリザベス女王の推定 4500 万ポンドにのぼる装飾品の由来を紹介（例：エリザベスが外国訪問の際に好んでつけるダイヤモンドを散りばめたティアラは 1888 年に当時のアレクサンドラ女王がロシアの友人の銀婚式で手に入れたもの）。		×
40	スーツ姿の男性（頭部）	私たちは 5 人になった/Jetzt sind wir fuenf	Bunte	イラン国王に新生児（男児）誕生。この誕生によって国王一家は王，王妃，長男（王位継承者），長女，次男の 5 人家族となった。難産と報じられていた王妃の出産を祝福。		×
41	水辺のカップル	ガルダ湖の愛/Liebe am Gardasee（Liebe um Urlaub）	Quick	ドイツ人に人気の保養地ガルダ湖（イタリア）の滞在記。ドイツ人にお勧めのガルダ湖畔のホテル，場所（予算）等を紹介。特に同地での若いイタリア人男性とドイツ人女性との出会い，恋愛，結婚に関する情報が多い。		○
42	森の中のカップル	賢い恋愛を/Sei klug in der Liebe	Revue	特に 20 歳以下の女性にピルを処方すべきかどうかを，アメリカと比較しつつ医学的，倫理的に議論。専門家たちは身体的，精神的に未熟な年齢の女性にピルを与えた場合の危険性を指摘。		○
43	家に向かうカップル（後姿）	殺人犯にも愛は必要/Moerder brauchen Liebe	Quick	殺人と強奪の罪で服役中（終身刑）のスウェーデン人「ロッフェ」（23 歳）が獄中結婚。刑務所を出て制限付で妻と暮らすことが許された。刑務所内の人間にも性愛が許されるべきかどうかという問題を提示。		×

ゲルハルト・リヒターのフォト・ペインティング作品（1962-67 年）に使用された写真群について

一覧表番号	該当写真	記事名（簡略化）	掲載誌	テクストの概要	雑誌写真についての備考	絵画化の有無
	■リヒターが切り抜いた（Atlas に含まれていないものも含む）のが確実な画像					
44	ふたりの青年	兄弟の血/Blut vom Bruder	Stern	クリスタ・ノイマンはマンフレート・クレルに自らの娘を自分の子として認知するよう要求。2 度の血液検査の否定的結果によってノイマンの要求は否決されたが，その後検査をマンフレートの弟が代理で受けたことが発覚。ノイマン立会いの検査でマンフレートが父であることが証明され，兄弟には禁固刑と罰金が課された。		×
45	花婿と花嫁	第六の掟/Das sechste Gebot	Quick	結婚を破綻に至らしめる事例を紹介。同号ではドイツの大都市で開催されるメッセ（見本市）が，男性と妻以外の女性との出会いの場となり得ると警鐘を鳴らす。		○
46	犬（ラッシー）	テレビ番組表（ラッシー）/TV Programm (Lassie)	Quick	子供向けテレビ番組「名犬ラッシー」。	ラッシーの同画像は向きを変えて Quick (02. Mai, 1965) 等で繰り返し使用された。	○
47	羚羊	稀少動物に生きる場はない/Kein Platz fuer seltene Tiere	Stern	多くの動物が絶滅の危機を迎える中，オランダ王配ベルンハルトを総裁としてスイスに世界野生生物基金が設立された(1961 年)。その活動によってハワイの野生のガチョウ「Né-Né」の絶滅がひとまず阻止された他，さまざまなプロジェクトが世界中で進行中。		○
48	女性	小さな妹の大きな夢/Die großen Traeume der kleinen Schwester	Stern	ナタリー・ウッド（当時 27 歳）とその妹（当時 19 歳）の記事。4 歳からハリウッドでキャリアを積み，華やかな浮名を流してきたウッドに対して，8 歳下の妹もスターを目指す。(写真はナタリー・ウッド。)		×
49	階段を下りる女性	「今週の Revue」（＊意訳）/Intime Revue	Revue	フランスのダンサー，リュドミラ・チェリーナ (Ludmilla Tcherina) を賞賛。40 歳にして 10 代の若々しさを持つという彼女は 25 年にわたってプリマ・バレリーナとして成功。	Bunte（18. April, 1962）にリュドミラが深刻な心臓衰弱にかかっていることが報じられている。彼女は舞踏中，あるいは後に何度か倒れたがそのたびに踊りへの意欲を示したという。	○
50	踊る女性たち	これがパリのリドだ！/Das ist der Lido von Paris!	Bunte	「リド」の祝祭を報じる次号のカラー記事（Hft. 4, 30-39）の宣伝。世界中から集まった有名人が多彩で豪華な舞台を堪能する。写真はその中でも最も高価な催しとされる「美少女一座」の芸。		×

一覧表番号	該当写真	記事名（簡略化）	掲載誌	テクストの概要	雑誌写真についての備考	絵画化の有無
	■リヒターが切り抜いた（Atlas に含まれていないものも含む）のが確実な画像					
51	アイス・ダンス(ペア)	コルティーナ・ダンペッツォ：マリカ・キリウスとハンス・ユルゲン・ボイムラー優勝！/Cortina d'Ampezzo: Marika Kilius und Hans Juergen Baeumler sind Weltmeister!	Bunte	コルティーナ・ダンペッツォ（イタリア）で開催された世界選手権でマリカ・キリウスとハンス・ユルゲン・ボイムラーがアイスダンスのペアで優勝。	キリウスとボイムラーについては特に Quick が 1964 年にふたりの回想というかたちで連載化。それらの記事によるとキリウスとボイムラーは 1962 年のプラハ大会では転倒のためまさかの敗北。キリウスは 1964 年 8 月，一部の雑誌で恋愛関係を噂されていたボイムラーとではなく富豪の息子ヴェルナー・ツァーンと結婚。	○
52	ピアノの前で声楽のレッスンを受ける若者	人々/Personalien	Stern	いわば「時の人」の頁。該当写真は，1957 年に死去したテノール歌手の祖父の後を継ぐべく音楽を習う 17 歳の若者 Benjamino・Gigli。ソプラノ歌手であるおばの手ほどきをうける。		○
53	踊る女性たち	テレビ番組表/TV Programm	Stern	TV 番組表の一部。オペレッタ音楽特集。演出はオスカー・クリューガー，振付はザビーネ・レスとギーゼラ・フレー（該当写真はザビーネ・レスのバレエ）。		○
54	曲芸をする２人の女性	テレビ番組表/TV Programm	Quick	TV 番組表。曲芸番組（写真は床を使った曲芸を行うボニー姉妹の演技）。		×
55	月面写真	月の絵葉書 Ansichtskarten vom Mond	Stern	アメリカの月面探索機「Lunar Orbiter II」撮影の月面写真。同機はアポロの着地地点を偵察。写真にはクレーター「コペルニクス」の 50 キロメートル南方にドイツの科学者の名を冠したクレーター「ファウト/Fauth」が写っている。		○
	■リヒターが切り抜いた画像（Atlas に含まれていないものも含む）と同一ではないが酷似した画像（カットの仕方，写真の方向等の違い）					
56	椅子	ミーレ/Miele	Stern	洗濯機の広告。狭いスペースにも置ける椅子サイズの小洗濯機。	＊掲載例多数。	○
57	海辺のハンモック，水着でくつろぐ男女	バハマ/Bahama	Stern	BOAC 社の広告。常夏の「パラダイス」(例：人気のない海辺，穏やかな貿易風，熱帯の花々の芳香）としてバハマ諸島を宣伝。	＊掲載例多数。	×
	■リヒターが切り抜いた元画像（Atlas に含まれていないものも含む）と同じ事件を扱ったもの。					
58		シカゴ血まみれの夜/Die Blutnacht von Chicago	Bunte	＊1966 年 7 月 13 日から 14 日の真夜中，シカゴの看護学生寮に男が押し入った。男は 8 人の女子学生をひとりひとり別の部屋に連れ出し，それぞれ絞殺や刺殺によって殺害。ひとり身を隠していたフィリピンからの留学生 Corazo Anurao（23）の目撃情報等により 3 日後に犯人リチャード・B・スペック (25) が捕まった。	Stern（02. April, 1967）に関連記事。犯人リチャード・スペックの判決前の刑務所生活とその生い立ち。	○

ゲルハルト・リヒターのフォト・ペインティング作品（1962-67 年）に使用された写真群について

一覧表番号	該当写真	記事名（簡略化）	掲載誌	テクストの概要	雑誌写真についての備考	絵画化の有無
	■リヒターが切り抜いた元画像（Atlas に含まれていないものも含む）と同じ事件を扱ったもの。					
59		千零夜/Tausend und keine Nacht	Quick	＊ドイツの少女ハイディ・ディヒター（結婚当時 19 歳）と「70 歳」になるクェートの石油王との 1 年という短い結婚生活の破綻を報じる。	＊連載化。ハイディ・ディヒターは 1962 年夏（8 月頃）に若いレバノン人と再婚した（Quick, 26. August, 1962）。	○
60		老婦人の死/Der Tod der alten Damen	Stern	＊アメリカの富豪の未亡人マージョリー＝ウィニフレッド・バードが 1961 年 7 月に（鎮静剤注射によると思われる）不可解な死を遂げた。初め彼女の主治医が疑われたが，やがて彼女のコンパニオン役を務めていた Nicolas Sturdza が容疑者として浮上した。		○